

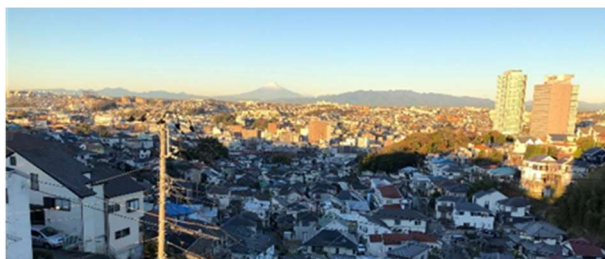


新年を迎え 二つの抱負

校長 竹下 護

令和6年(2024年)を、世の中の安寧を心の底から祈念して迎えています。

朝、120段の階段を上って富士山の姿が見られたり、正門前で登校してくる子どもたちを迎えたりしていると、一日のやる気の源が得られます。子どもの方から先にあいさつされると、心が明るく元気になります。



↑本校4階の窓から望む冬の朝

今日の朝会でも、あいさつがたくさん交わされることを願い、

「あ」あかるく、「い」いつも、「さ」さきに、「つ」つづけて

の話を全校にしました。あいさつは、「そこにあなたがいることを分かっている、認めている」という合図です。ご家庭でも、地域でも、あいさつを1日に1人でも1回でも増やし、「自分のことを見てくれている、分かってくれている」というほんの一瞬の小さな積み重ねを、みなさまとともに進めていきたいです。私も視線を、パソコンやスマートフォンの画面から意識的に身近にいる人に移し、「あいさつ」をより心がける年としていきます。

また、先月、保護者が作文をご紹介くださいました。「第73回全国小・中学校作文コンクール(読売新聞社主催)」で文部科学大臣賞を受賞した、中学3年生の「自閉症を持つ私から見た日常」と題した作文です。すぐにホームページに掲載されている要約文を読みました。冒頭部分に、「私から見える世界を、みんなに共有したい。」と書かれていました。



↑要約文

自閉症については、今までに関わりをもったり、研修等で繰り返し学んだりしてきましたが、当事者の体験から綴られた文章からは衝撃を受けました。改めて、自分は一人ひとりの存在にしっかりと目を向けているか、その存在をありのまま受け入れているか、うれしいことや困っていることなどに真摯に寄り添うことができているか、相手に対して様々な想像力を働かせているか等々、考えさせられました。今年は一人ひとりに、より丁寧に目を向け、理解することを心がける年にもします。

今年も教職員がアットホームにまとめ、保護者や地域のみなさまとともに、学校教育目標「ぐんぐん にこにこ きらきら輝く上小の子」を目指した教育活動を創造していきます。引き続き、みなさまのご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

2月3日(土) 鹿嶋神社「的射・節分祭」

(参考) 港南区「ふるさと港南のまち自慢ガイドブック」→

午後3時頃～京急上大岡駅「神事」、3時半頃～鹿嶋神社「的射」、4時頃～「豆まき」

